

国語科学習指導案(本時案) 3 学年

単元名『里山は、未来の風景』

1 本時の位置 (全6時間扱い中の第1時)

前時…なし

次時…第2場面を読み、里山の田んぼのよさについて話し合う。

2 本時の主眼

コンピュータ中心の世界を20年後の風景だと思っている子どもたちが、「里山」とはどんなところかを考える場面で、教科書本文を読み、第一場面を読んで「いのちあふれる場所」とはどんなところかを考え、話し合うことを通して、「里山」に対して具体的なイメージを持つことができる。

3 本時の展開

平成 30 年 9 月 6 日(木) 第2校時

授業会場 3年西組教室

3年西組 男子18名 女子17名 計35名

指導教員

授業者

段階	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導・援助と評価
導 入	1 みんなが描いてきた 20 年後の未来の絵を見る。	・空飛ぶ車だ！ ・背の高いビルばっかだ。 ・今とあんまり変わらないと思う。 ・えー、田舎じゃん。 ・なんでここを未来の風景だと思うんだろう。	7 分	○子どもが教材に興味を持てるように、子どもたちが描いた「20 年後の未来の絵」を数枚紹介した後、作者の描く未来の風景「里山」の写真を提示する。 「これを未来の風景だと思っている人のお話です。」
	2 教科書本文を読む。	・里山っておばあちゃんちがあるところに似てる。 ・私もナナホシテントウ捕まえたことがある。	7 分	○初めてこの教材を読む子どもたちがスムーズに内容を取り入れられるように、教師が本文を読む。
展 開	学習問題：「里山」とはどんなところかを考えよう。			
	3 第一場面を丸読みで読んで、「里山」とはどんなところかをワークシートに書きだす。	・人としぜんがなかよくくらしている場所。 ・植物と生き物が集まっているところ。 ・田んぼで囲まれているところ。	6 分	○子どもがワークシートに書く内容を把握できるように、ワークシートだけでなく黒板にも指示を書く。
	4 書いたことを発表する。	・おばあちゃんちみたいなおとこ。 ・魚とりや昆虫採集ができる場所。 ・いのちあふれる場所。	7 分	○教科書本文から抜き出すだけでなく、本文から考えられる様子についても聞く。 「具体的にはどんな場所？」
	学習課題：第一場面を読んで「いのちあふれる場所」とはどんなところかを考え、話し合えばよさそうだ。			
終 末	5 「いのちあふれる場所」について考え、話し合う。	・いのちがいっぱいあるところ。 ・人とか生き物とか植物がたくさんいるところ。	10 分	○子どもが深い学びができるように、松本市の上空写真を提示する。 「どこがいのちあふれる場所かな？」
	6 本時の追究を振り返る。	・里山ってどんな場所かわかった。 ・いのちあふれる場所は緑いっぱい自然が豊かなところかなあと思った。 ・なんで作者は里山が未来の風景だと思ってるのか知りたい。	8 分	○意見を共有する場を作る。 評価：「里山」に対して具体的なイメージを持つことができている。 ワークシート、発言、表情から

4 板書計画

里山は、未来の風景 今森光彦	ぼくは里山の写真家	○「里山」とはどんなところ？
○「いのちあふれる場所」とはどんなところ？		